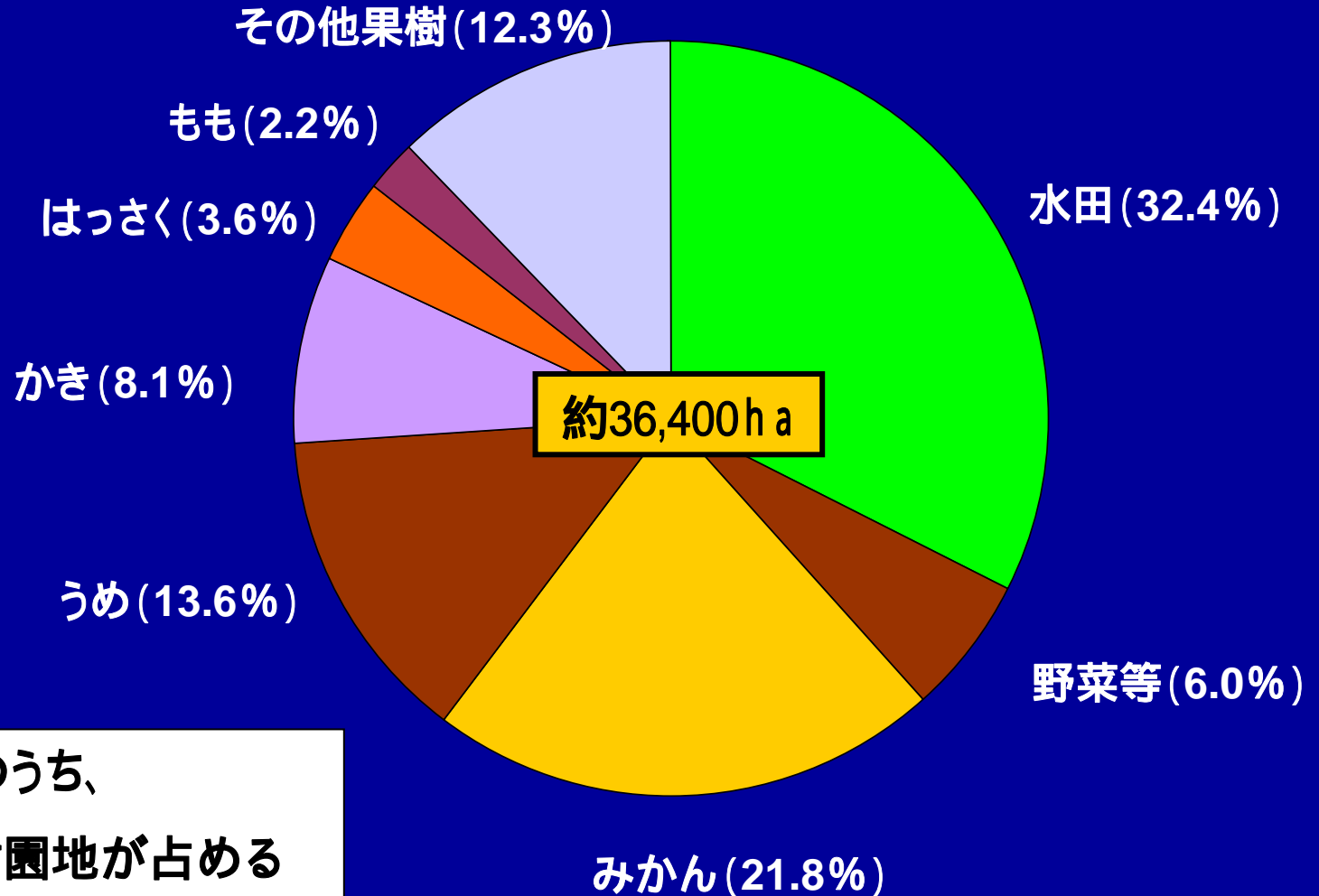


# 和歌山県における ドリフト低減に向けた試験・実証等の 取組状況について

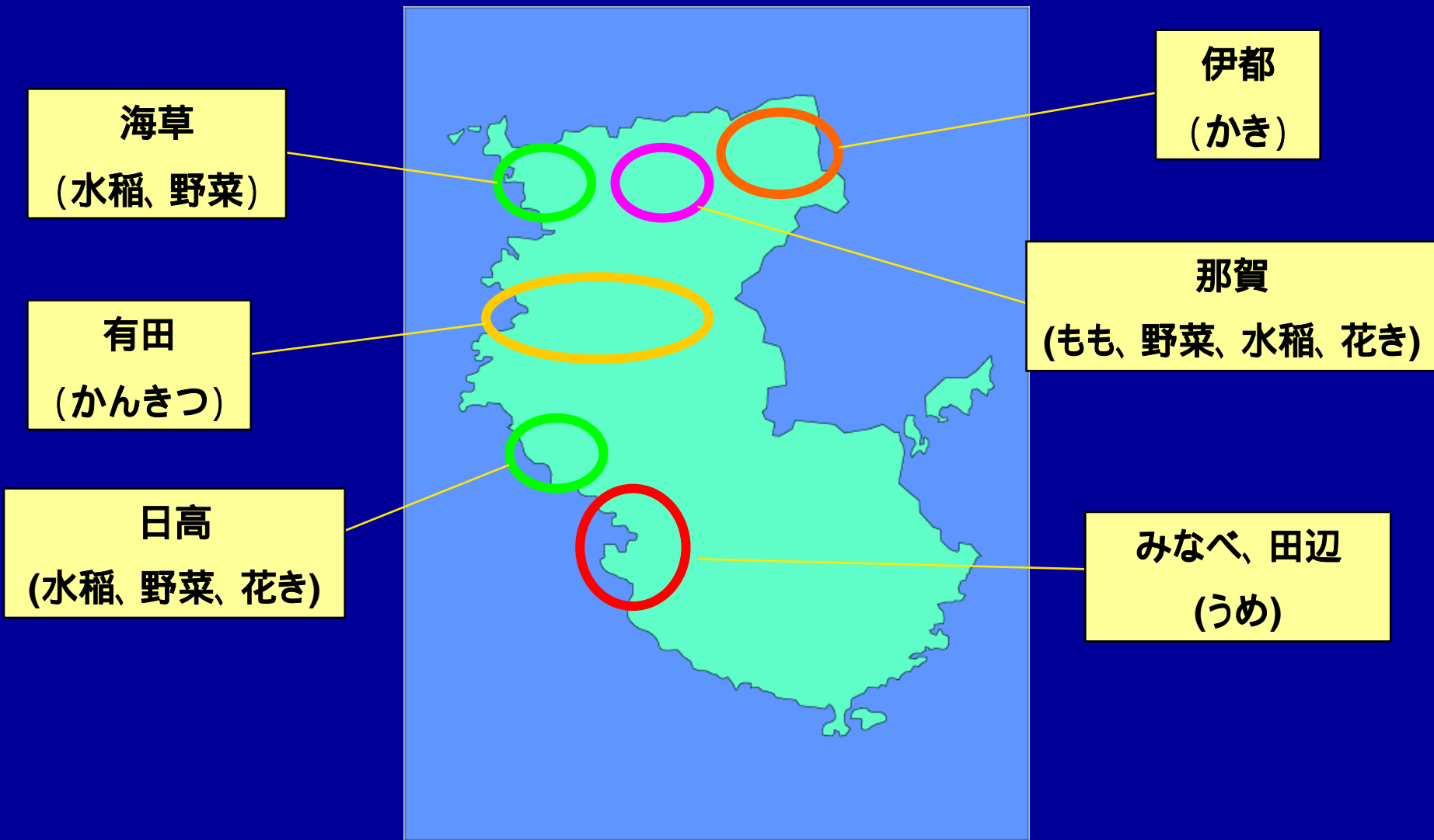


# 1. 和歌山県農業の特徴

耕地面積(平成16年)



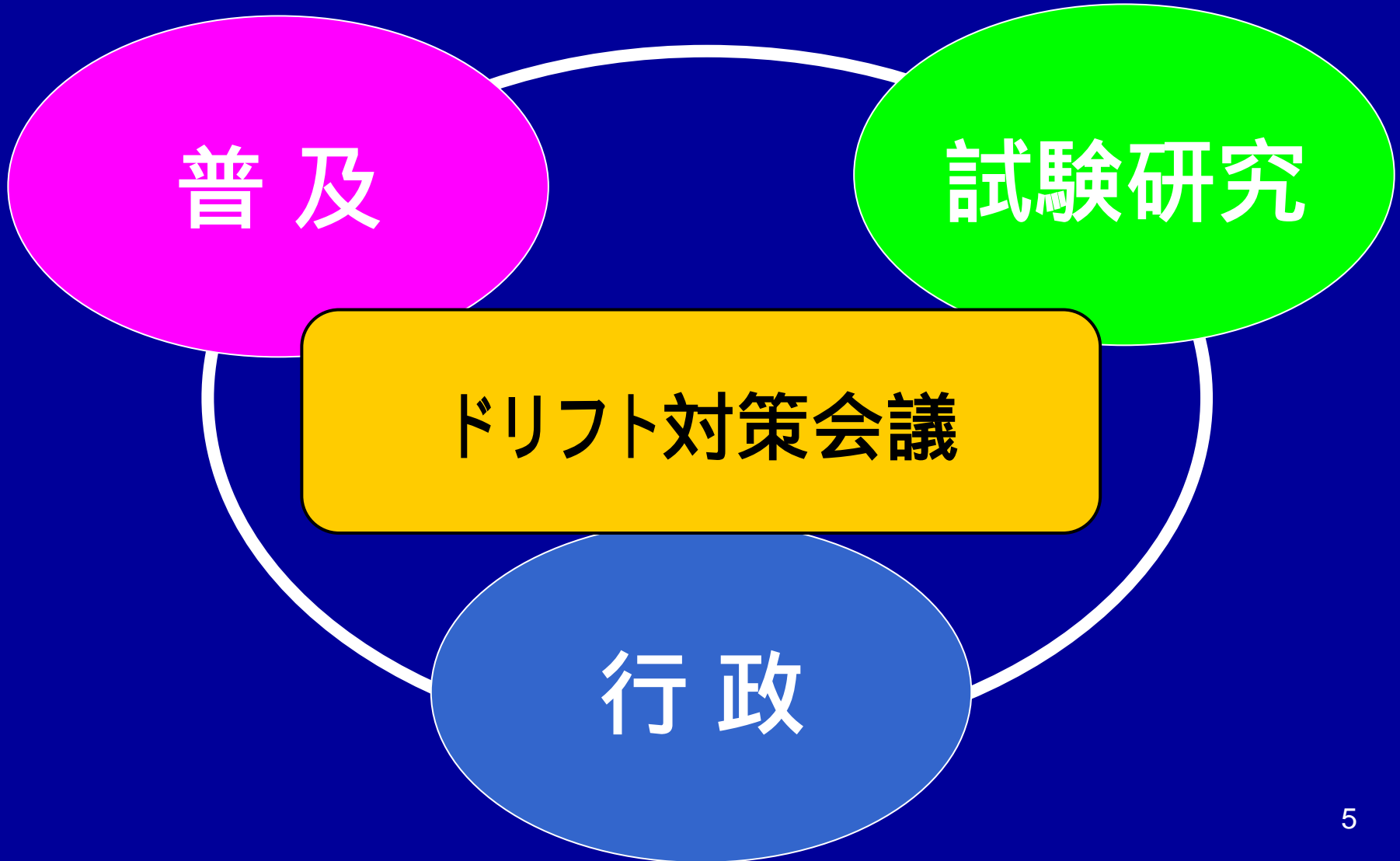
全耕地面積のうち、  
半数以上を樹園地が占める  
(全耕地面積の61.5%)



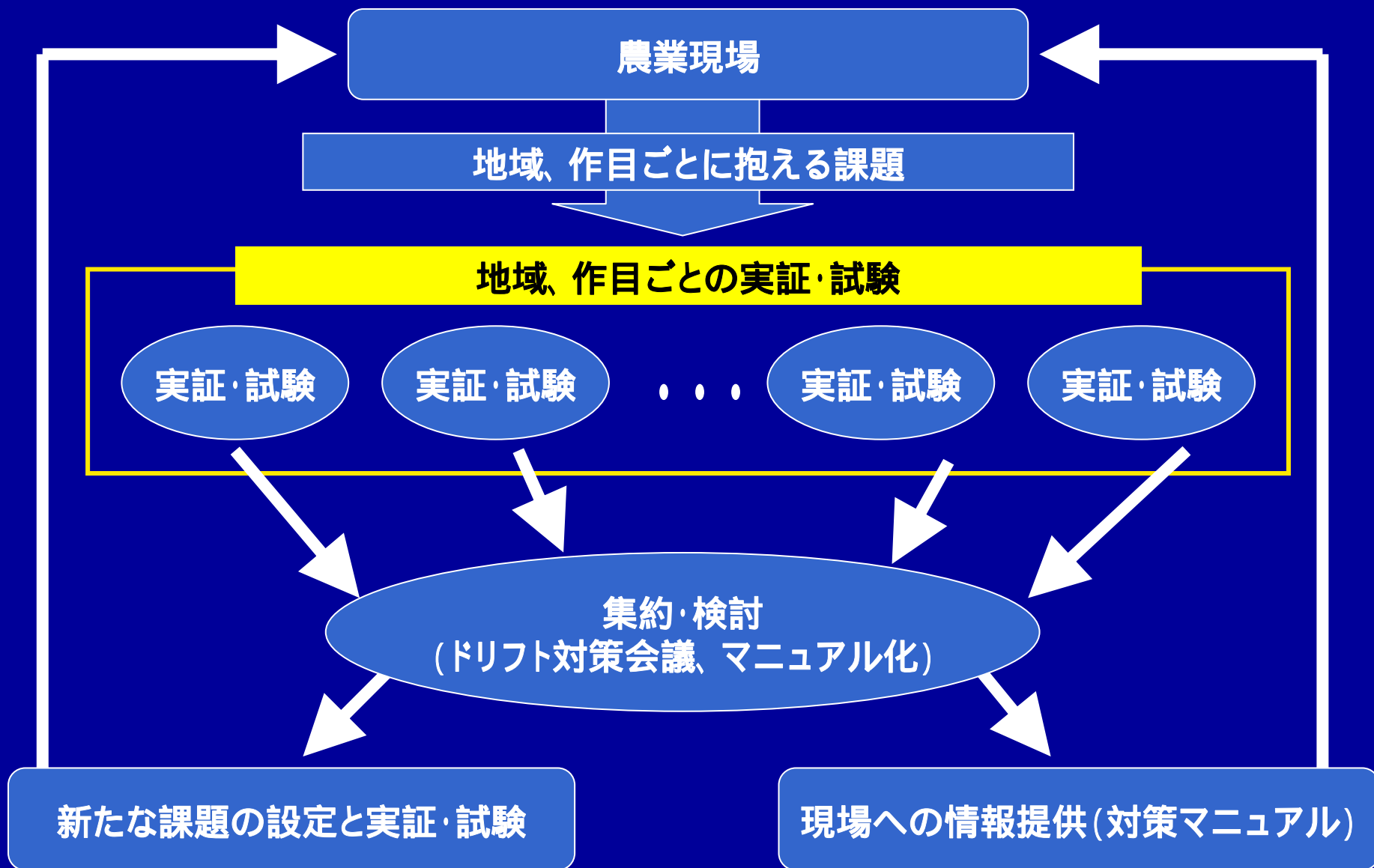
地域ごとに主要作物が異なる

## 2. ドリフト低減に向けた 実証・試験の実施

# ドリフト低減対策実証・試験に関する 県内部での連携

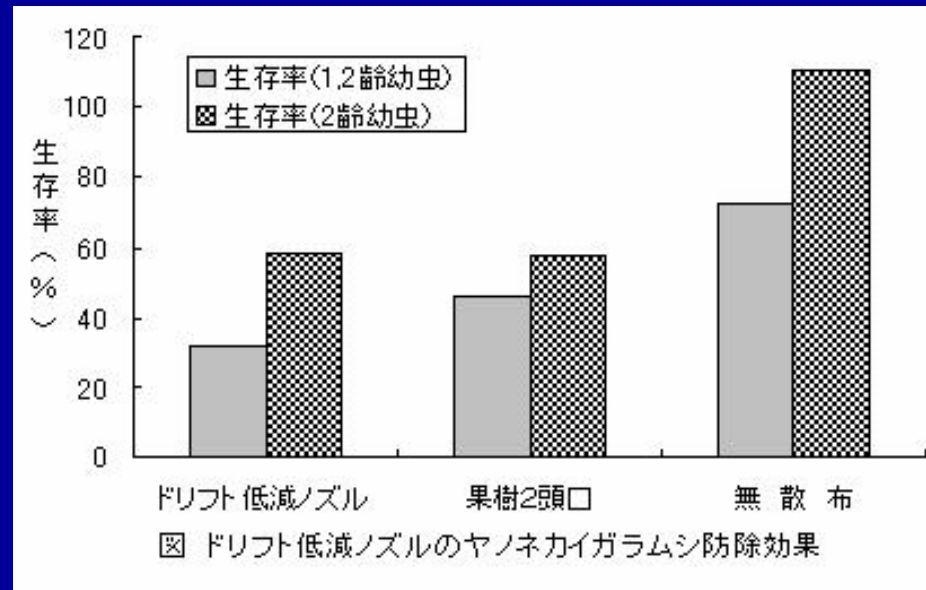
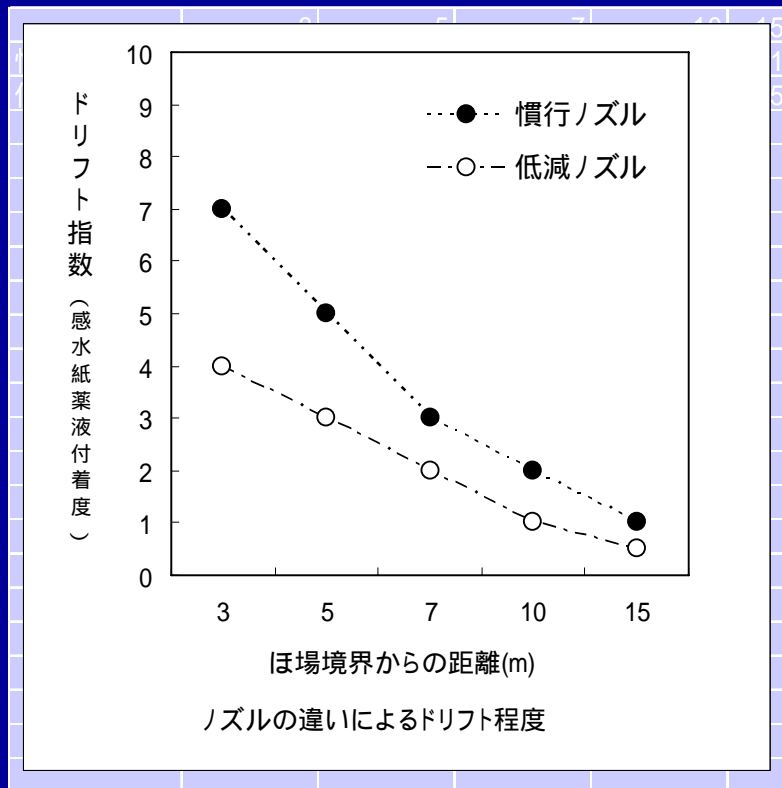


# 実証・試験の流れ



# 3 . 平成18年度に取り組 んだ課題

# (1) ドリフト低減ノズルの効果確認 (飛散程度、防除効果)



	調査果数	被害果率 (%)	
		炭そ病	カメムシ
対策散布区	43	0.0	4.7
慣行散布区	42	2.4	4.8
無散布区	39	12.8	7.7

## (2) ソルゴー障壁による農薬飛散防止効果

- ・ソルゴー障壁の有無による飛散程度
- ・ソルゴーの品種比較
- ・感水紙により飛散程度を調査



- ・飛散程度：ソルゴー有 < ソルゴー無
- ・感水紙設置距離と飛散程度

設置距離：近い ↔ 遠い

(風速)：弱 ↔ 強

飛散程度：少 ↔ 多

- ・品種により特性(草丈、出穂期等)異なる

## (2) ソルゴー障壁による農薬飛散防止効果

表1 ソルゴーの品種特性

品種名	茎長(cm)
① 高糖分ソルゴー	226
② 土たろう	198
③ 三尺ソルゴー	148

表2 障壁作物によるドリフト軽減効果

障壁作物	風速 (m/s)	散布位置からの距離		
		5m	10m	15m
あり	最高5.4m	1.0	0.7	0.1
なし	最高5.2m	2.5	2.0	1.5

\* 表中の調査値は感水紙の付着度指数(大畑ら、1964)を基準とした。

表2 障壁作物によるドリフト軽減効果

障壁作物	風速 (m/s)	散布位置からの距離						
		障壁手前	1.2m	5m	10m	15m	20m	25m
あり	最高5.4m	10.0 (-)	1.1( 9)	1.2( 35)	0.8(14)	0.4( 2)		
なし	最高5.2m			4.5(1,345)	3.5(727)	2.5(260)	1.8( 82)	1.5( 39)

\* 表中の調査値は感水紙の付着度指数、( )内数字はcm<sup>2</sup>あたりの感水紙に付着した水滴数

# (3) 防風ネットによるドリフト低減効果

- ・網目目合いによる飛散程度の違い
- ・散布圧による飛散程度の違い
- ・感水紙により飛散程度を調査



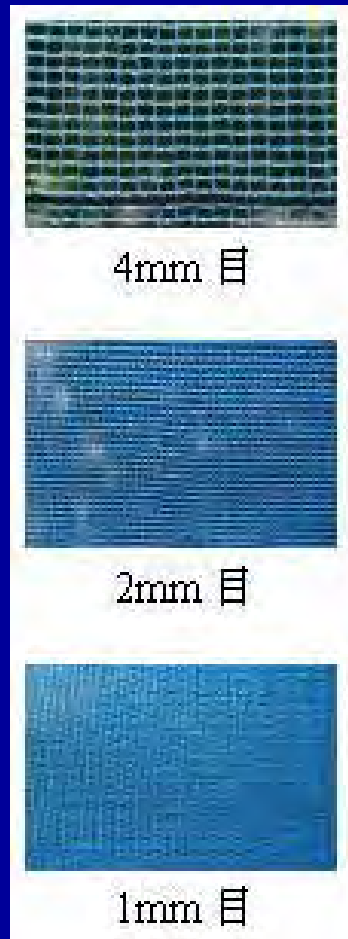
## ・ネット目合い、散布圧と飛散程度

目合い : 小 ↔ 大

散布圧 : 弱 ↔ 強

飛散程度: 少 ↔ 多

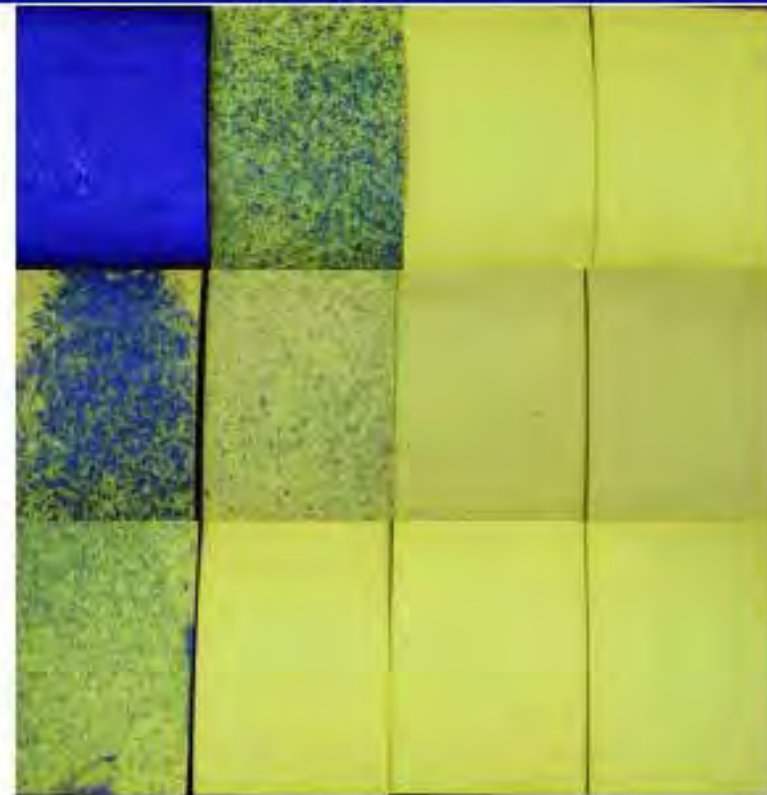
# (3) 防風ネットによるドリフト低減効果



ドリフトに配慮  
しない手散布  
圧力 1.5MPa

ドリフトに配慮  
しない手散布  
圧力 1.3MPa

ドリフトに配慮  
した手散布  
圧力 1.0MPa

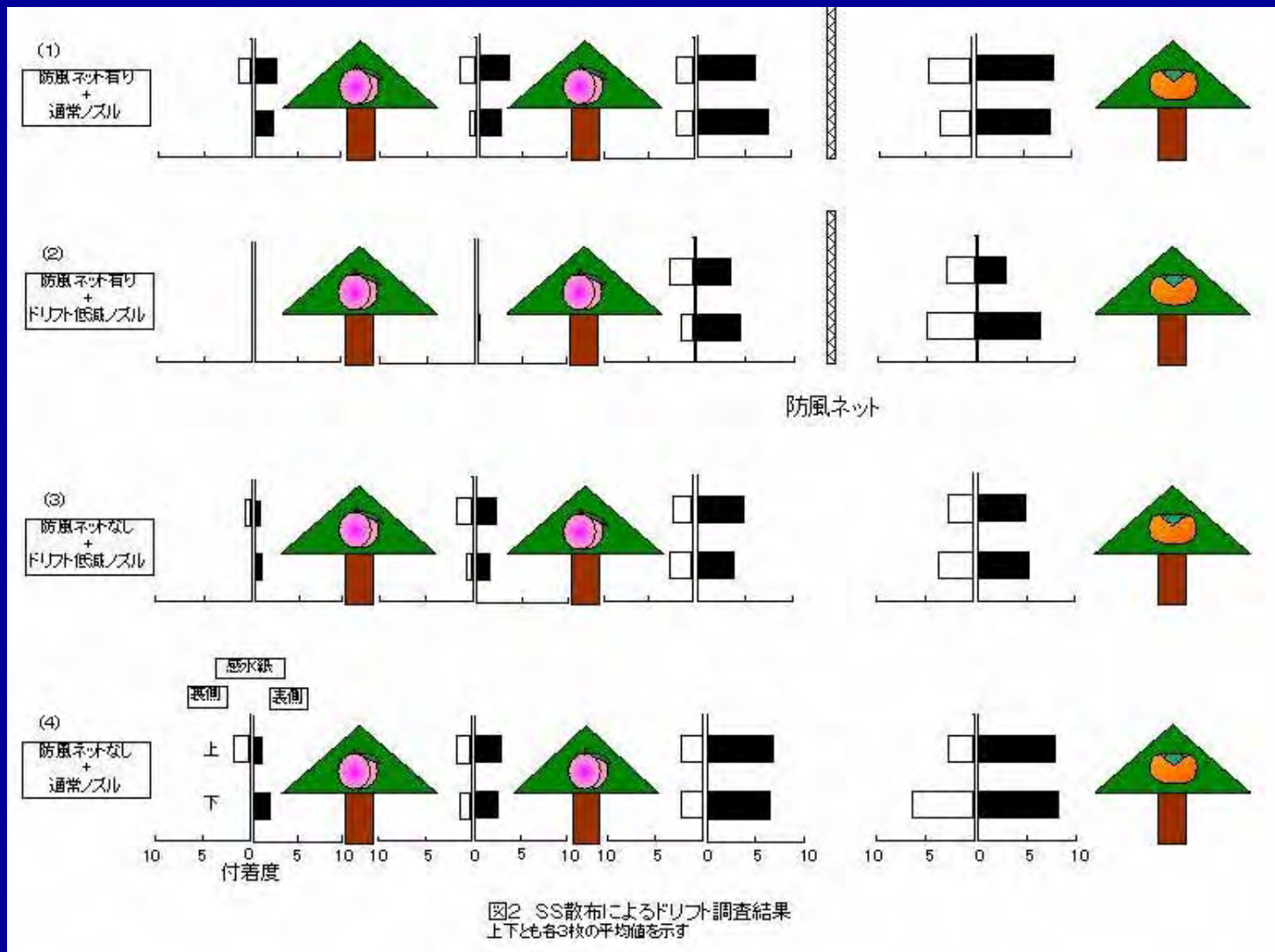


ネット無し 4mm 目 2mm 目 1mm 目

図1 散布条件別の各種ネットのドリフト低減効果

感水紙をネットより 150cm 離れたミカンの葉に設置し、動力噴霧機、果樹 2 頭口ノズルでネット 80cm 前から 2 秒間噴霧

# (4) スピードスプレーヤ散布時の防風設備による飛散防止効果



## (5)ドリフト対策マニュアルの作成

- ・平成18年度の結果・事例をドリフト対策会議等で検討し、啓発も含めた「ドリフト対策マニュアル」を作成
- ・農薬の取扱に関して指導的な立場の方に配布  
(農作物病害虫防除所、振興局農業振興課、試験研究機関、農業協同組合営農指導部署、農薬アドバイザー)

## 4. 実証・試験における課題

- ・付着程度を評価する詳細な尺度(付着度標準表)が必要(感水紙での調査)
- ・ソルゴー障壁の最適な構築条件(播種時期、施肥量、品種)

# 5. 今後の取り組み

- ・実証の充実
- ・ドリフトの実態把握と飛散防止対策技術の実証  
(ミカン ウメ)
- ・遮蔽シート設置に対する助成